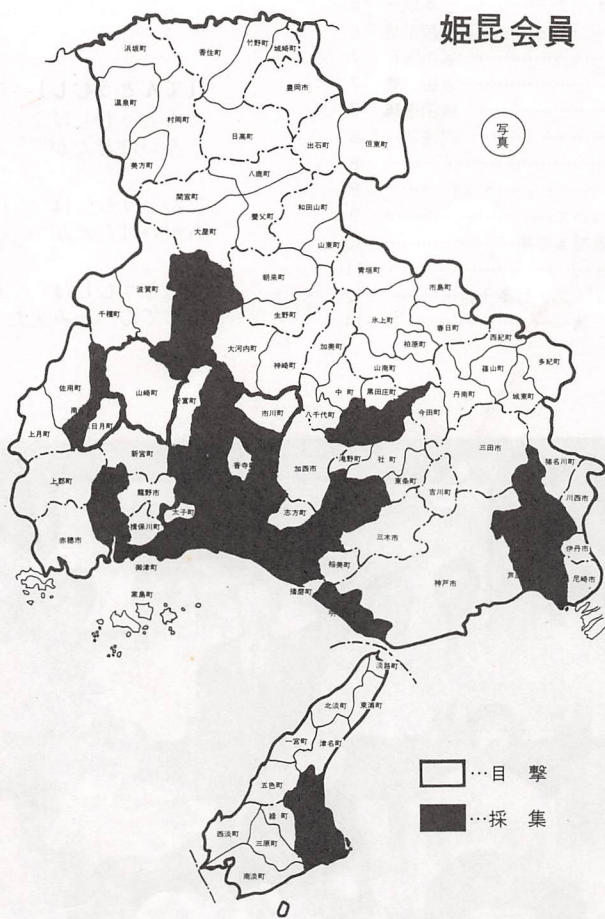


とんとむし

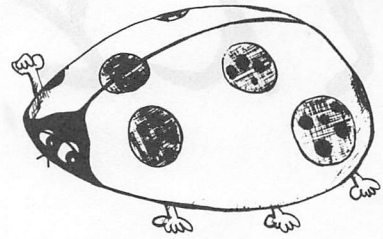
姫昆会員



Vol. I No. 3

姫路昆虫同好会

目次	1
書写山でキベリハムシ発生	木村三郎 2
ハネビロトンボ西播地方に偶発	相坂耕作 3
ハネビロエゾトンボが再飛来	菅原昭夫 3
ルリボシカミキリを再発見	三木安貞 3
兵庫県下に於けるミヤマカラスアゲハの異常について	広畑政己 4
郷土のウスバカゲロウ相とアリシゴク	相坂耕作 5
《食草》②-エノキ	家永善文 5
応聖寺のウツキノヒメハナバチ	三木順一 6
報告文の書き方	法西定雄 6
夢前町菅生潤の蝶	谷川洋行 7
蝶との出会い	吉田 豊 7
岐阜市内のギフチョウ	飯田逸博 7
昆虫館だより ②	内海功一 8
会誌・会報発行について	8
ジュニア質問箱	8
記録用紙・分布作製図について	9
分布作製図について・会員募集要項	10
姫昆サロン会ご案内	11
資料室・姫昆ミニミニニュース・行事予定	12
会 員 名 簿	13~14



〔てんとうむし〕

てんとうむしは あかいふく
くろいぼたんが テンテンテン

てんとうむしは くろいふく
あかいぼたんが テンテンテン

てんとうむしは かくれんぼ
てんてん みえたり かくれたり



(前列左より) 木村、岩村、山本広、三木順、尾崎
(後列左より) 結城、松村、三木安、西田、相坂、菅原、広畑、石井、唐土、山本五、花岡、吉田

書写山でキベリハムシ発生

木村 三郎

キベリハムシは日本産のハムシ類の中で一番大きく、たいへん美しいハムシで、成虫、幼虫ともどこことなくエキゾチック(異国的)な感じのする甲虫です。

日本古来からのハムシではなく、おそらく中国から何かについて神戸港あたりから侵入し土着したいわゆる帰化動物です。生息地は六甲山地に限られていましたが、最近ではその分布地が少し広がって県中央部に点々と発見されています。

幼虫はモクレン科のサネカズラ(ピナンカズラ)とマツブサを食べ、卵は7~8月頃食草の枝のまなになったところに卵塊で生みつけられ、そのまま冬を越す。翌年の5月初め頃ふ化し、十分に成熟した幼虫は土の中にもぐり蛹化します。

成虫は6月の終り頃から出現し、9月の初め頃まで見られます。おもしろいことにわが国では雌しか見つかっていません。従って繁殖は単為生殖(処女生殖)によっているわけです。このように雌だけで生殖できることがこのハムシがわが国に入って子孫を残し絶えなかった原因でしょう。

1976年8月1日の姫・昆第1回合同採集観察会並びに市立科学館主催の書写山生物観察会の際、円教寺の前の草上に静止していた本種を採集しました。(毎日新聞S51.9.2報道)当日他の会員並びに児童も2~3発見しており、分布が確認されました。そこで今回はこのキベリハムシの分布図と食草の関係を発表します。

この文を草するにあたり多大の資料提供ならびにご教示載いた高橋寿郎氏に厚くお礼申し上げますとともに三木順一、大道淑文、家永善文各先生、相坂耕作氏に対してお礼申し上げます。

※参考文献

- 高橋寿郎(1968) 甲虫雑記1)MDKニュース
Vol.20-No.3:3-14
高橋寿郎(1969) 甲虫雑記2)Vol.21-No.1:2-7
高橋寿郎(1974) キベリハムシ 採集と飼育36巻
4号:80-91
紅谷進二(1971) 兵庫県植物目録(六月社書房):82
神戸新聞社学芸部(1974) 兵庫探検・自然編
(神戸新聞社):268-270
森内茂・永井正身(1975) 昆虫の飼育(II)
(文研出版):75-76



①~⑳:キベリハムシ分布地
■:マツブサ分布区域確認地

- ①川西市一の鳥居 ②芦屋高塚付近(芦屋市) ③篠原・一王山十善寺(神戸市灘区) ④六甲山・高山植物園・ケーブル登山口付近(神戸市灘区) ⑤摩耶山(神戸市灘・真谷区) ⑥布引・再渡山(神戸市真谷区) ⑦鳥原(神戸市兵庫区) ⑧旭ヶ丘・大日丸山付近(神戸市兵庫区) ⑨高取道・飯沼・多井畑(神戸市須磨区) ⑩水上郡篠ヶ峰 ⑪水上郡栗鹿峰 ⑫水上郡柏原 ⑬水上郡高見城山 ⑭水上郡石戸山 ⑮水上郡山南町 ⑯多可郡笠形山 ⑰多可郡黒田庄・黒田 ⑱神崎郡長谷村 ⑲朝来郡柳原 ⑳朝来郡小段ヶ峰高原 ㉑佐用郡船越山 ㉒宍粟郡三方町国有林 ㉓宍粟郡赤西 ㉔美文字郡杉ガ沢 ㉕書写山(姫路市)

分布図の通りキベリハムシと食草の関係については、ピナンカズラよりマツブサの方が親密であるように思えます。それはマツブサの方が匂いが強く、キベリハムシを強く誘因するのではないかと思います。西播では三濃山、富樫、雪彦山、奥谷など、また東播地方の法華山、光明寺山などマツブサの分布している所で次々とキベリハムシが発見されそうです。また反面キベリハムシが発見された地にはマツブサが分布していることとしたいと思いますのでぜひ発見にご協力下さい。

(S.03 飾磨郡夢前町)

ハネビロトンボ西播地方に 偶発

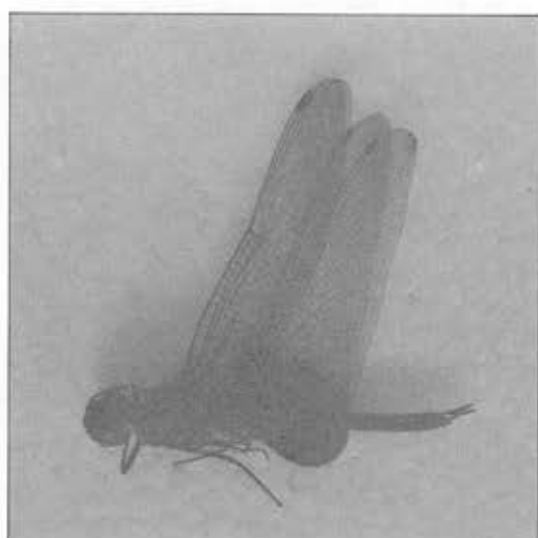
相坂耕作

ハネビロトンボ(トンボ科)は小笠原諸島、四国南部、九州南部および南西諸島の各島に分布するトンボでウスバキトンボを大きくした様な形態をし飛翔中は大変赤く美しく見える南方系のトンボである。

本州では三重県や愛知県でも定着を思わせる事実が観察されたり静岡、長野、千葉県などでも採集されている。

わが兵庫県下では三木市、高砂市で各一頭、神戸市で二頭、青野ヶ原で若干得られているに過ぎず分布上注目すべきトンボと思われる。

このたびの採集の状況は、水辺をパトロールしていたのを捕獲したもので、採集地付近にはハス池があり有機質の多い水質となっている。採集日前には台風もなくおそらく同池付近で発生したものと考えられる。本年も調査に行ったが残念ながら発見出来なかった。なお同池にはコフキトンボアオヤンマ、ナニワトンボなど分布上重要なトンボが発生している。



ハネビロトンボ ♂ 揖保郡御津町産
26-7-1975 Col 相坂耕作
(S.05 姫路市)

ハネビロエゾトンボが 再飛来

菅原昭夫

S48年度に自宅へハネビロエゾトンボが舞い込んできたことがあるが、再び本年8月21日に我が家へ舞い込んできた。

ハネビロエゾトンボはトンボ科の中でも稀種で再度の飛来に驚いている。分布としては日本のみで産地はかなり局限されており幼虫は主として丘陵地や低山地の湿地帯に生息している。またハネビロエゾトンボは普通種のクカネトンボとは早ではすぐ区別できるが♀では形態的にはほとんど区別できず尾端背面をみなければ同定しにくい。この早の飛来発見によりハネビロエゾトンボの発見やオオエゾトンボの生息もわかった模様である。詳しくは会誌「こむらさき」に相坂氏より発表される予定である。

採集データ ハネビロエゾトンボ ♀ (エゾトンボ科)
DATE: 21-8-1976
LOC: 御津町中島
COL: 菅原昭夫 (所蔵: 相坂耕作)

(S.17: 揖保郡御津町)

ルリボシカミキリを再発見

三木安貞

兵庫県の奥地、宍粟郡にはルリボシカミキリが生息していることは文献等でわかっていたが、この度、赤西国有林で再発見出来ましたので報告します。成虫はブナ帯にあらわれ多くの広葉樹の伐採木に集まる大変美しいカミキリムシです。赤西一帯の甲虫採集の際に身体に飛来したところを捕獲しました。

採集データ ルリボシカミキリ
(カミキリ亜科、ルリボシカミキリ属)
DATE: 25-7-1976
LOC: 赤西国有林(波賀町)
COL: 三木安貞

(S.12: 揖保郡御津町)

兵庫県下に於ける ミヤマカラスアゲハの変異 について

広畑政己

日本に於けるミヤマカラスアゲハは、北は北海道から南は屋久島に至るまで広く分布し、地域、個体によって非常に変化に富んでいる。寒冷地のものは、暖地のものと比較すると小さく、九州、四国などの個体は大きい。特に第3化のものは巨大なことで知られている。翅表の鱗粉についても、地域、個体によって著しく差が現れ、前後翅表面の外縁に沿う黄緑色、青緑色、後翅裏面の黄白帯がよく発達したもの、消失したものなど様々なバリエーションが見られ、中には一見カラスアゲハと錯覚するようなものまである。傾向としては、寒冷地のものは黄緑色、青緑色、黄白帯が強く現れる個体が多く、暖地のものほど弱いと言える。しかし必ずしもこの通りではない。

では、後翅裏面の黄白帯が消えやすく、完全に明瞭なものもあれば、全く認められないものもある。

筆者が1975年5月18日に、宍粟郡波賀町音水にてミヤマカラスアゲハの雌を採集、採卵、飼育の結果、6月25日～7月1日にかけて、19♂、8♀が羽化した。それによると、前翅表面の黄緑色は全般的に弱く、後翅表面の青緑色の帯については、鮮明に現れているものは10例、わずかながらあるもの8例、ほとんど消失したもの9例があった。また、後翅裏面黄白帯については、北海道、東北などの寒冷地に見られる太く鮮明な個体はなく、かなり鮮明に現れているもの(Fig.1)から消失したもの(Fig.2)まで様々であった。後翅表面の青緑色の帯が鮮明に現れている個体は、裏面の黄白帯も鮮明に現れるという結果が得られ、後翅表面青緑色帯の例とほぼ同じ結果がでた。しかし黄白帯が全く消失した個体は2例となっている。翅表の黄緑色の散布と弦月赤紋は、対島産に於てよく



Fig.1

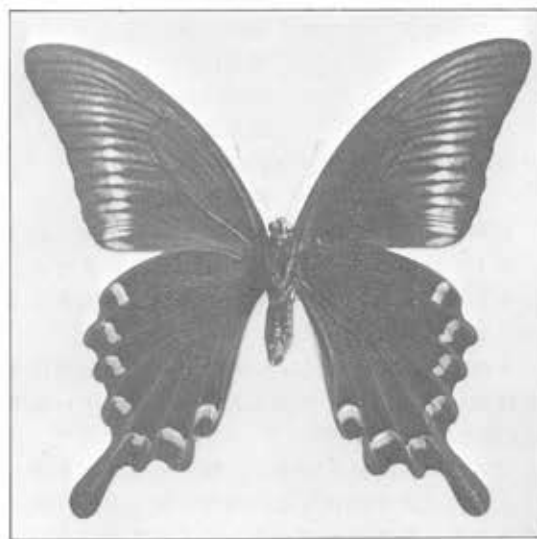


Fig.2

兵庫県下に於けるミヤマカラスアゲハの分布について筆者の知る範囲では、相生市、姫路市、飾磨郡、朝来郡、宍粟郡、神崎郡、養父郡、城崎郡、多紀郡、美方郡、水上郡、西脇市、神戸市などの産地があるが、その変異については次のように記されている。春型は青緑色が美しく、裏面黄白帯は太く鮮明な個体もあれば、半ば消えたものもある。しかし全く消失した個体は見当たらない。夏型

発達するが、音水産の飼育例については、弱く不明瞭でもある。

前記は、夏型飼育標本による変異でもあり自然状態と多少異っているかも知れない。

*参考文献

山本広一：兵庫県下のミヤマカラスアゲハについて

1) 兵庫生虫

藤岡知夫：日本蝶類大図鑑 講談社

播磨舞友会：兵庫県産蝶類分布図 ひろおびNo.1

(S. 28: 姫路市)

郷土のウスバカゲロウ相 とアリジゴク

相坂耕作

ありじごくが成長し、羽化してウスバカゲロウになるということは多くの人に知られています。しかし、ありじごくの生活については余り知られていないようです。私は最近幼虫を飼育し、いろいろな面白いことを確認しましたので一報告します。郷土に産するウスバカゲロウは、私の採集したものが次の4種あります。

ウスバカゲロウ	1964-8-1	姫路市山田町
"	1967-8-13	雪彦山
"	1976-8-21	姫路市広峰山
コウスバカゲロウ	1967-8-13	雪彦山
ホシウスバカゲロウ	1967-9-13	鷓鴣山
"	1976-8-22	宍粟郡一宮町福知
コマダラウスバカゲロウ	1968-8-4	姫路市山田町

日本には、約13種のウスバカゲロウが知られていますが幼虫は5~6種しか知られていません。この幼虫であるありじごくの生活様式は大きく2つに分けられます。

その一つは、大木の下や緑の下などの砂地にすり鉢状(噴火口状)の凹みを作って作っているもの(前述のウスバカゲロウ、コウスバカゲロウ、ホシウスバカゲロウ)であり、他の一つは穴を作らず、岩の表面や樹皮などの凹所に住むもの(前述のコマダラウスバカゲロウ)です。普通にありじごくとして親しまれているものは、すり鉢状の凹みを作って住んでいる方です。

このすり鉢状の凹みに小昆虫が落ちこんだとき、はい上ろうとして、すり鉢の砂粒を落とす。この落ちた砂粒がありじごくの特殊な感覚毛を刺激し、ありじごくは瞬間的に獲物にとびかかり、大あごで虫をはさむ。

この大あごの先は獲物の体液を吸えるようになっており、同時に麻酔薬を注射出来るようになって

ている。ありじごくにはさまれた小昆虫は、あっという間に獲物になってしまいます。ありじごくは獲物が少ないと成虫になるまで3年もかかるといわれています。

ありじごくには肛門がありません。一片の老廃物も排出せず食べるばかりのありじごくは成虫になって初めてふんを出します。幼虫の期間にたまった宿便塊を出すのです。

参考文献 原色昆虫大図鑑(北隆館)
昆虫たちの世界(誠文堂新光社)
虫と遊ぶ(梅谷敏二著、家の光協会)
(S.05 姫路市)

《食草》②-エノキ

家永善文

日本の国産であるオオムラサキの食草として知られ、また、ゴマダラチョウ、テングチョウの食草でもある。この木は全国的に分布している落葉樹で、高さ20m、直径1mにもなる。山林中に自生しているが、むしろ神社や仏閣の境内に植えられたり、道ばたに植えられたりしているのがよく目につく。「徒然草」(第45段)にある「えのきの僧正~堀池の僧正」という話はよく知られているが、このえのきはエノキの大きさや生育場所をよく表していると言えよう。

姫路市内にも、あちらこちらの神社境内に大樹が残されており、市の保存樹として指定されているものも多い。中でも市内御着先祖橋側のエノキは枝ぶりも堂々とした立派なものである。書写山や高砂市曾根町にコバノチョウセンエノキという珍木がある。エノキ同様に食草となるだろう。

エノキの漢字にふつう榎の字を使う。これは暑い夏に木陰を与えてくれる木という意味で、エノキの木陰で遊ぶ子供、その木を求めて飛翔するオオムラサキを想うと頼もしい限りである。エノキによく似た木にムクノキがある。生育地もよく似ているがエノキの葉は緑が半分より先にきょ歯がある。ムクノキは緑全体にきょ歯があり、粗い毛が生えているので葉面はざらざらしている。物を磨くのに使われるほどである。果実が熟するとエノキは橙色になり、ムクノキは黒くなる点などの違いがある。果実は共に食べられる。

(S.13 姫路市)

応聖寺の ウツギノヒメハナバチ

三木 順一

応聖寺（おしょうじ）というのは福岡町の板坂にあって、福岡駅から西北に約4キロの所にある。サラソウジュの木（実はナツツバキ）で有名で、6月中旬によく文人、俳人の訪れる寺である。同じ頃モリアオガエルのマシュマロのような白い卵塊もみられる。この寺の本堂の前の芝生に6月上旬、ウツギの開花期と時を同じうして、このハチを多数みる。真黒で縄を少々大きくしたようなハチが地上20cm位の高さで空中をぐるぐる多数飛び廻っている姿は一寸みものである。その下には盛土径3cm位、穴の径3mm位のクレーター様の穴が何百となくあけてある。このハチは地中に巣を作っているのである。捕えても殆んど刺さない。痛くない。雌は後脚に花粉を一杯つけて巣に入っている。この美しい黄色の花粉は珍しいことにウツギの花粉ばかりらしいのである。蝶の幼虫が特定の草を喰べる事は承知の事であるが、花粉はミツバチでも1匹1匹は同じ花を訪れても、他の1匹はまた別の種類の花を訪れる。その中ではサクラもナタネも混合してつめられている。ツツハナバチの類の花粉の集め方も、1回の外出でいろいろの花を訪れている。すなわち身体についている花粉はいろいろの花からの混合なのである。ミツバチは1匹の後脚についている花粉は混合ではない。この点このハチがすべてウツギだけの花粉を集めるのは興味がある。

この噴火口のような巣は普通真下に10~20cm入りほゞ水平に曲って育児室があり、ここに花粉団子をこしらえ、卵1個を産む。幼虫は花粉をたべて、翌春までそのまま地下生活、5月下旬に蛹になり、月末に地上にはい出る。成虫は活動期、すなわち地上生活はウツギの開花期の約10日程の短かいものである。他の単独蜂のように、雄は2~3日早く地上に出て、交尾を終えると、間もなく死亡するらしい。雌は庭のある一隅に多数行動し、穴を掘り、花粉を集め、産卵を終るのである。

雄は雌よりも少々小さく、行動も異り、頭盾が黄色であるという差異がある。

(S.06 神崎郡福岡町)

報告文の書き方

法西 定雄

文章を書くのは苦手だ。まして報告文（報文）なんてとんでもない。書けといわれただけで頭痛がすると、おっしゃる方が多いと思います。これから、だれでも簡単に、いともたやすく報文を書くことができる方法を伝授いたします。美麗辞句を使って名文章を書こうとするからむずかしいのであって、報文には名文章は不要です。すべての報文を分析すると、5W1Hからなっていることがわかります。この5W1Hを並べるだけでよい。

5W1Hとは、なぜ（WHY）、なに（WHAT）、どこ（WHERE）、いつ（WHEN）、だれ（WHO）、どんな方法（HOW）の英語の頭文字をとったものです。この5W1Hを綴るだけで立派な報文ができます。

すなわち、なぜ、どんな目的で、いつ、だれが、どこで、どんな方法で、なにをしたかよいわけてす。

さらに、簡単な報文（短報）であれば、いつ、どこで、だれが、なにをしたかを書けばよいわけです。

例えば、

いつ、 昭和51年6月20日(日)
だれが、 日本太郎
どこで、 姫路市書写山のふもと
なにをしたか、 キマダラルリツバメ1頭目撃した。性別不明（周囲の状況など書くと、さらによい）報告者、富士花子

これで立派な短報ができました。これなら、わたしにもできます。できると思われたら、忘れない中に、報文を書いて発表してください。自分には、こんなつまらないことと思われても、他の人にとって大変役立つこともあるものです。少しも恥かしいことはありません。いつ、だれが、どこで、なにをしたかを書いて、会報「てんとうむし」、会誌「こむらさき」に投稿してください。

(西宮市)

夢前町菅生澗の蝶

谷川 洋行

夢前町へ転居した昭和48年度から現在までに小山園団地を中心として採集した蝶を中間発表させていただきます。同地区の蝶について昭和43年度から採集しておられる木村三郎氏に協力をいただき感謝いたします。

(アゲハチョウ科……………10種)

・ウスバシロチョウ・ジャコウアゲハ・アオスジアゲハ・キアゲハ・アゲハ・モンキアゲハ・クロアゲハ・オナガアゲハ(Col. 木村)・カラスアゲハ・ミヤマカラスアゲハ(Col. 木村)

(シロチョウ科……………6種)

・モンキチョウ・ツマグロキチョウ・キチョウ・スジグロシロチョウ・モンシロチョウ・ツマキチョウ

(シジミチョウ科……………19種)

・ムラサキシジミ・ウラゴマダラシジミ・ウラキンシジミ・アカシジミ・ウラナミアカシジミ・ミズイロオナガシジミ・ミドリシジミ・ウラジロミドリシジミ・オオミドリ・トラフシジミ・コツバメ・ベニシジミ・ゴイシジミ(Col. 木村)・クロシジミ・ウラナミシジミ・ヤマトシジミ・ルリシジミ・ツバメシジミ・ウラギンシジミ

(テングチョウ科……………1種)

・テングチョウ

(タテハチョウ科……………18種)

・ウラギンシジミ・メスグロヒョウモン・クモガタヒョウモン(Col. 木村)・ミドリヒョウモン・ウラギンヒョウモン・ツマグロヒョウモン(Col. 木村)・アサマイチモンジ・イチモンジチョウ・コムスジ・サカハチチョウ・キタテハ・ヒオドシチョウ(Col. 木村)・ルリタテハ・ヒメアカタテハ(Col. 木村)・アカタテハ・スミナガシ・コムラサキ・ゴマダラチョウ

(ジャノメチョウ科……………7種)

・ヒメウラナミシジミ・ジャノメチョウ・クロヒカゲ・ヒカゲチョウ・サトキマダラヒカゲ・ヒメジャノメ・コジャノメ・サトキマダラヒカゲ

(セセリチョウ科……………9種)

・ミヤマセセリ・ダイミョウセセリ・アオバセセリ(Col. 木村)・コチャバネセセリ・ヒメキマダ

ラセセリ・キマダラセセリ・ホソバセセリ・チャバネセセリ・イチモンジセセリ=以上70種です。

(S. 35: 飾磨郡夢前町)

蝶との出会い

吉田 豊

蝶の採集をやり始めてから13年ぐらいいなりです。小学五年の時学校でメスグロヒョウモンのめすを採ったのがきっかけで今日に至っています。そのなかでも一番感激した事は、オオミドリシジミのおすを採集した時です。初めて手にした緑色の輝き、あの感激だけは一生忘れることの出来ない一つになっています。学校から帰ってきてネットを持っていつもの所へ採集に行き、アアア、今日もだめかと思ったとき前方10m位の所を弱々しくフラフラと飛んでいるものがある。何かなあと思った瞬間もう僕は走り出していました。

矢つぎばやにネットを2~3度振り回し蝶が飛んでいないのを確認しおそろおそろ中をのぞき込みました。「いた。採った」思わず大声で叫び種の確認をした。それは生まれて初めて手にする緑色の輝く蝶でした。いたんだ羽ですすでに輝きを失ったものでした。

しかし僕は満足でした。なんとも形容しがたい充実感。その時から僕の蝶の採集がエスカレートしていきました。

(S. 34 西脇市)

岐阜市内のギフチョウ

飯田 逸博

最近の傾向としてギフチョウの個体数が減っているようですが、岐阜市内では逆に急激に個体数が増えています。今まで分布していなかった所から多数見つかっています。1975年まで岐阜市でギフチョウがまったく採集されなかった地で、1976年ギフチョウが多数いた地は岐阜市下印食、羽、稲葉、大西、西山などです。岐阜市ではギフチョウが減少している報告があるのですが、私が調査した限りでは減少しているのは一部で、増えている地の方がはるかに多いようです。

(S. 32 岐阜県羽島郡岐南町)

昆虫館だより ②

千種川グリーンライン昆虫館館長
内海 功一

9月に入ったいま、キリギリス、ヒメギス、ヤブキリはもう老令、クサキリ、クツムシ、ウマオイ、クダマキモドキ、ツユムシ、セスジツユムシ、ササキリ、カヤキリなどは成虫ざかり、アシグロツユムシはまだ幼す、クビキリギスは生れて間もない。

前記のものに加え、コオロギ類や、マツムシ、スズムシ、カンタンなどと鳴く虫で館内のにぎわう時となる。

クオアゲハ、ルリタテハ、スミナガシ、キマダラヒカゲなどの幼虫も大きくなっている。本年3回目のカイコはいま2令この夏は意外とキベリハムシが多く見つけた。食欲は旺盛で、しかも水揚げのむずかしいピナンカズラでの飼育、展示だが人はあまり気付かぬようである。

庭で、例年のようにヒメカマキリと出会った。一日の仕事を終えたいま、何百と鳴くスズムシの中でこのことをしたためる。(S08:佐用郡南光町船越)51.9.1

* 会誌発行について

発行予定日…52年4月10日
原稿締切日…52年1月31日
どしどし投稿して下さい。

* 会報発行について

発行予定日…52年1月20日
原稿締切日…51年12月10日
どしどし投稿して下さい。

ジュニア質問箱

【質問箱】⑦ ツバメがトンボをつかまえていたがツバメはトンボを食べるのですか。(J.17木村光司)

普通ツバメはハエやフトなど空中昆虫を一番よく食べます。しかし雨の日などヒナに与えるエサが少ない時にはトンボも与えます。今年の6月、加西市の福永茂氏のツバメの観察記によると、

1976年6月14日、ツバメのヒナがふ化してから一週間経ったある日、ヒナのエサとして運んできたトンボ、ハエ、ガが巣の下に落ちていた。いずれも足などを接着剤のような粘液でひっつけられ動けないようにされていた。翌日もトンボなどが落ちており巣立つまでに約30匹のトンボが確認できました。

【質問箱】⑧ ありじごくについて詳しく説明して下さい(協会会員:今津満里子)

ありじごくは雨があまり強くあたらない軒下や排水の良い砂地で生息しています。ですから飼育容器のように水が溜まるようなことはまず考えられません。また、アリの巣に雨が落ちて2~3時間水につかるようなことがあってもよほどのことがない限り場所を移動するようなことはありません。本誌5ページの「郷土のウスバカゲロウ相とアリジゴク」を参考にしてください。

【質問箱】⑨ アゲハチョウの♂♀の見わけ方について姫昆ではどのように解答されますか(市民からのTEL)

♂♀の区別については春型夏型とも♀の方が♂より大きく(例外個体もある)♂の方が♀よりも色があざやかで黄色と黒色がはっきりしている。対して♀は色がくすんで見える。

夏型♂は後翅表面7室中央に黒斑が、♀は薄い黒色が現れる。詳しくは標本を同定会日にお持ち下さい。

昆虫類分布調査記録用紙

調査の記録

調査地域 参照地図(別紙添付の事)
 調査年月日 年 月 日 天候
 調査目的
 記録者 同行者

○個体数……a=多い, b=普通, c=少ない
 ○新発見……イ=新 種, ロ=中 位, ハ=同 損

調査の行程

地区	時間	地名	標高	植物景観と主要植物
A				
B				
C				

(備 考)

Lined area for notes.

(姫路昆虫同好会)

種 名	A地区			B地区			C地区			種 名	A地区			B地区			C地区			
	種数	個体数	新発見	種数	個体数	新発見	種数	個体数	新発見		種数	個体数	新発見	種数	個体数	新発見	種数	個体数	新発見	

最近、自然破壊が問題になっていますが、その自然について私たちは十分理解しているでしょうか。自分の目で確かめ、自分自身で直接自然にふれることが自然を理解する上でもっとも大切なことです。

姫路昆虫同好会は昆虫を保護するため、さらに昆虫を観察することによって、自然についてもっと理解を深めるために分布作成図を作り、資料を蓄積していきたいと思います。これによってより正確な昆虫の分布・生態がわかり、ひいては乱獲を防ぐことにもなると思います。皆様方の協力をお願いします。

【記録用紙及び分布作製図について】

これらの用紙は必要があれば事務所まで申し出て下さい。
 十分活用した後、運営委員まで報告して下さい。用紙代は請求しないつもりです。また、資料の保管は事務所で行ない、自由にサロン会等で利用できるようにしたいと思います。

【記録用紙の記載についてお願い】

- ① No欄に会員番号を記し、その後51年4月以降の各自の採集日にそって番号を付して下さい。それ以前のデータについては会員番号の後に0を付けて下さい。
 例) 山本広一氏の第8回目の採集行の記録は No.S01 -8 と記されます。
- ② 記録用紙は県内についてのみ使して下さい。
- ③ 種名がはっきりしないときは三角紙にNo、記録用紙とともに同定会日に持参して確認して下さい。
- ④ 報告の整理は冬季に行ないますので記録の報告は12月10日までにサロン会当日か直接運営委員にお渡し下さい。

兵庫県産昆虫類分布作成図

46



区分	目撃者	採集者	採集日	区分	目撃者	採集者	採集日
播磨地区				出石町			
姫路市				但馬町			
明石市				神岡町			
船生市				高塚町			
加古川市				舞方町			
姫野市				淡島町			
赤穂市				八尾町			
朝来市				養父町			
三木市				大蔵町			
高砂市				岡寄町			
小野市				金野町			
加藤市				和山町			
菅川町				山崎町			
社町				朝来町			
滝野町				丹波地区			
東条町				船原町			
砂町				本上町			
加美町				青砥町			
八千代町				春日町			
桑田庄町				山南町			
福美町				市島町			
播磨町				津山町			
忍方町				城東町			
家島町				多紀町			
手取町				西紀町			
神崎町				丹南町			
市川町				今田町			
播磨町				阪神地区			
曾寺町				神戸市			
大内町				尼崎市			
宿富町				西宮市			
須磨川町				芦屋市			
御津町				伊丹市			
太子町				宝塚市			
上郡町				川西市			
佐用町				三田市			
上月町				福元町			
上青島町				淡路地区			
三日月町				洲本町			
山崎町				淡島町			
安富町				淡島町			
一宮町				淡島町			
淡島町				淡島町			
千原町				淡島町			
但馬地区				五色町			
豊岡市				高瀬町			
城崎町				津町			
竹野町				西沢町			
香取町				西沢町			
日高町				西沢町			

A	蝶
B	蛾
C	トンボ
D	カミキリ
E	その他 甲虫
F	その他 No.

⊕
⊕
⊕
⊕
⊕
⊕
⊕
⊕
⊕
⊕
+

(姫路昆虫同好会)

〔分布作製図について〕

- ① 目撃者欄=会員の会報、会誌の投稿による報告及び姫昆記録用紙の報告によって記します。
会員以外の報告は参考として記します。
 - ② 採集者欄=本年度からの採集品について記し会報、会誌の投稿及び姫昆記録用紙の報告によって記します。
- ※ 蝶、トンボについて51年度の分布図は52年3月中にまとめられると思います。その後順次追加しますので多に利用して下さい。
以後、蛾、その他甲虫、カミキリ、その他の昆虫の順にまとめていく予定です。

会員募集

シニア会員は
〒671-23 飾磨郡夢前町菅生潤161
TEL (07933) 5-0225
木村 三郎方
姫路昆虫同好会(振替神戸9916)

ジュニア会員は
〒670 姫路市西延末字手柄山440-2
姫路市立科学館内姫路昆虫同好会
TEL (0792) 23-1080

*会費
本会入会申込者は入会金として 1,000円
シニア会員および賛助会員…… 1,800円
ただし高校生は…… 1,200円
ジュニア会員……… 600円
協力会員…… 1,000円(入会金不要)

姫昆サロン会

シニア会員

姫昆サロン(8月5日)報告…参加者14名

- ①姫昆サロン世話人あいさつ……………木村三郎
- ②中部地方の高山蝶……………吉野和義
- ③八日市市のキマダラルリツバメ……………岩村 巖
- ④姫路市書写山のキベリハムシ……………木村三郎
- ⑤コムラサキの学名ilia と metis ……川副昭人

—一人一話—(発表者順)

- 岩村 巖 対馬での採集記
宍粟郡でのヒョウモンモドキ
- 森下泰治 佐用方面での蝶採集記
- 広畑政己 ミヤマカラスアゲハの食草
ハマセンダンについて
- 村上裕通 蝶の採集について
- 村上秀樹 大山での採集記
吾妻山のミヤマモンキチョウ
- 吉田 豊 蝶の採集について
- 竹内俊行 ギフチョウの飼育
赤西でのオオムラサキ
- 山本五男 生態写真について
- 吉野和義 岡山県のベニモンカラスジミ
- 三木安貞 トンボの分布について
- 菅原昭夫 相坂氏の採集行に同行して
- 相坂耕作 広く昆虫の分布・生態について
- 川副昭人 故郷である三日月町の昆虫相について
世界の蝶の分類
- 木村三郎 オオムラサキ・ギフチョウ・ツマグロ
ヒョウモン・ゼフィルスなどの飼育に
ついて

姫昆サロン(9月2日)報告…参加者17名

- 第一回運営委員会により決定事項発表
 - ・顧問として奥谷禎一先生を迎える
 - ・兵庫県産昆虫類分布作成図について ほか
- 〔調査依頼〕

- ①砥峰と太田池周辺のFaunaの比較の調査
- ②犬見川水没地域と川上部落あたりのFaunaの比較の調査
- ③宍粟郡から竜野市、揖保郡にかけての揖保川流域の調査

—一人一話—(発表者順)

- 菅原昭夫 ハネビロエゾトンボの御津町で採集
- 結城八郎 赤西でスミナガシ 3♂♂を採集
- 三木安貞 7月の末、赤西でルリボシカミキリ採集
- 相坂耕作 姫路市のトンボ相について
- 唐土洋一 大山、蒜山でオオヒカゲ他採集
信州方面における採集禁止区域場所の調査依頼
- 花岡 正 入笠山のキベリタテハ、コヒオドシ、ヒメシロチョウほか
- 吉田 豊 赤西にて蝶採集
大山のゴマシジミほか
- 岩村 巖 8月は小学一年の子供と共に蒜山にて採集
信州方面のオオミスジほか
- 広畑政己 故郷の笠形山のふもとでクマゼミ採集
昔はいなかったが北上しているのだろうか
- 尾崎 勇 山地性のギフチョウの研究
三濃山の裏でウスバシロチョウ採集
- 山本広一 小野市でホシミスジ採集
但馬地区で虫の会結成準備
- 三木順一 イマイツツハナバチは福崎、姫路市勝原区、社の三ヶ所に発生
- 木村三郎 ツマグロヒョウモンの累代飼育について
- 石井為久 赤西、杉が沢方面での採集
- 松村邦正 下宿して近くなった信州の昆虫相調査
- 西田英之 久崎と日名倉山での採集

次回サロン会予定

- 11月4日(木) PM7:00~10:00
市民会館 第一会議室
会費…500円
- 12月及び52年1月は休会します
- 2月3日(木) PM7:00~10:00
市民会館 第一会議室
会費…500円

＝ 資料室 ＝

下記の方々から貴重な資料文献を恵与されました。皆さん大いに活用して下さい。

誘蛾会：誘蛾燈 No.64 (1976. 4)

・神保一義：妙高山塊、火打山の高山帯の蛾
 神保一義：高山蛾をはじめの人のために (II)
 佐藤力夫：コガタツバメエダシヤクの斑紋異常個体

静岡昆虫同好会：駿河の昆虫 No.93 (1976. 5)

清 邦彦：富士山周辺のギンイチモンジセセリ
 渡辺一雄：静岡県西部地方の蛾類

静岡昆虫同好会：駿河の昆虫 No.93 (1976. 5)

望月敏広・吉田清俊：8月上旬筑ヶ岳方面の蝶類
 北条篤史：奥秩父周辺の蝶類分布調査 (V)

高橋寿郎氏：採集と飼育 (1974) No.36-4

高橋寿郎：キベリハムシ

飯田逸博氏：佳香蝶 No.27 (1976. 5)

稲川忠明・飯田逸博：伊吹山地南部の蝶 (I)

飯田逸博氏：佳香蝶 No.28 (1976. 6)

稲川忠明・飯田逸博：伊吹山地南部の蝶 (II)

播磨蝶友会：「ひろおび」No.1 (1976. 6)

アゲハチョウ科・シロチョウ科の分布図及び
 月別種類別採集数

松崎浩幸氏：チョウセンアカシジミ他5個体標本

役員追加

(顧問) 奥谷 禎一

運営委員会の決定により神戸大学農学部教授の奥谷禎一先生に本会の顧問を引きうけていただくことになりました。

お忙しい先生ですが、今後私たち会員に大いに御教示いただけることでしょう。

よろしく願いいたします。

姫昆ニニニニニュース

1975. 6 / 加古川市平荘町にてヒメヒカゲ発生
 1975. 6 / 姫路市勝原区にてキマダラルリツバメ発生
 1976. 6 / 姫路市打越にてウラキンシジミ発生
 1976. 6 / 姫路市上大野町にてキマダラルリツバメ発生
 1976. 7 / 姫路市東山にてナガサキアゲハ1♀採集
 1976. 7 / 佐用郡佐用町にてホシチャバネセセリ発生
 1976. 8 / 姫路市山田町藤の木山自然公園にてツマクロヒョウモン大発生
 1976. 8 / 姫路市広峰山にてモンキアゲハ大発生
 1976. 9 / 姫路市北八代県立姫路西高校教室内でスミナガシ1♂採集

＝ 行事予定 ＝

- 10月10日 ← 正会員シルビアシジミ観察会
 集合場所 / 佐用郡上月町円光寺
 時間 / AM10:00 ~ PM1:00
 連絡先 / 木村三郎まで
 ☎ 07933 (5) 0225

- 10月17日 ← ジュニア会員夢前川秋の虫観察会
 集合場所 / 青山ハラダ家具前
 時間 / AM10:00 ~ AM12:00
 連絡先 / 木村三郎まで
 ☎ 07933 (5) 0225

- 11月21日 ← 正会員卵観察会
 集合場所 / 佐用郡上月町円光寺
 時間 / AM10:00 ~ PM3:00
 連絡先 / 相坂耕作まで
 ☎ 0792 (34) 3811

〔協力会員〕

姫路市／小林 勉、石田義弘、中野一郎、安楢利博、島 浩司
中島 直、宮本隆久、山崎憲吾、上田二郎、小林正夫
前川利博、岩沢弘一、福永勝子、高寄和代、鈴木伊作
相坂正二、石原美佐子、西山美知子、水田かおる、
野瀬正彦、中藤博幸、須山多美子、田中友子、福岡薫
山本光男、小坂文之、佐々木哲、花田利男、横田礼子
洪水孝幸、高田二郎、高須 隆、黒田一郎、丸尾準治
沢田美代子、今津満里子、長谷川泰次郎、熊沢克也
橋本写真店・懶ソネヤ、山野印刷、金田産業、宝商事
緑広園、ハクロ建材店、園芸用品のやましろ

大阪府／中江美代子、大阪博物

神戸市／吉田晃一

生野町／羽淵捷子、戸張美代子、正垣延寿

八千代町／京立建材店

加古川市／岸 益弘

市川町／永良 誠

安富町／三木玄吾

夢前町／木村長太郎、三村美代子、浄徳貫二、木村 章、宝建築

その他匿名希望7名

絵皿プレゼント

当選者発表

9月16日兵庫県立姫路西高校生物
教室に於いて当会運営委員ならび
に生物教諭2名立合のもと抽選い
たしましたところ下記の10名様に
決定いたしました。

西	山	美	知	子
上	田	二	郎	
田	中	友	子	
法	西	定	雄	
小	林		勉	
的	場		績	
鈴	木	伊	作	
高	須		隆	
ハ	ク	ロ	建	材
戸	張	美	代	子

以上10名様

編集後記

発足以来3ヶ月、虫仲間が70名になりました。会員皆様のご協力により原稿も
順調に集まりまして、ここに「てんとうむし」Vol.1No.3を予定通り発行するこ
とが出来ました。委員一同心より御礼申し上げます。

会として進むべき道、成し遂げるべき事の重要性を考え、さらに会員皆様方の
協力を期待しております。お互いに私達の身近かな昆虫を、又自然をより深く理
解しようではありませんか。尚、今回の「てんとうむし」は費用の都合により写
真を少なくしました。ご了承下さい。(運営委員)

「てんとうむし」Vol.1 No.3

発行日 1976. 10. 10

発行 姫路昆虫同好会
飾磨郡夢前町菅生潤161

印刷 山野印刷

写植 山本写植